

(1)事業の概要等

令和6年度 事務事業評価シート

事業番号		Z3203	事務事業名			SDGs未来都市推進事業			事業期間			令和3年度		～	令和8年度以降					
実施計画事業		○																		
実施計画事業以外の事業			担当部			市長公室			担当課・担当係			秘書政策課 市政戦略係								
事業の概要	小牧市まちづくり推進計画(R5年～R8年)	自治体経営編	基本 施策	32	展開 方向	3	事業・予算区分		一般事業		款	2	項	1	目	2	大	4	中	4
	根拠法令 ・個別計画								対象 (何・誰を対象に)		市民を中心としてこまきに関わるすべての人、企業、団体等									
	目的 (何のために)	小牧市は令和3年度に尾張地域で初のSDGs未来都市に選定されており、こどもから高齢者まで誰もが住みたい、住み続けたいまちづくりに取り組むことで、市民、地域、学校、団体、企業とともに“誰一人取り残さない”多様性と包摂性のある社会の実現、持続可能な地域社会の実現を目指す。							内容 (どのような方法で)		○令和5年度の実施内容 ・SDGsこまきカードの作成 小牧市の地域課題やSDGsについて理解を深めるきっかけとなるカードゲームを産・学・官・民の連携により作成した。 ・小牧SDGs登録制度の運用 SDGsの推進に取り組む「こまきSDGsパートナー」が情報発信する特設サイトを運用した。また、パートナー同士の交流会を実施した。 ・こまきこども未来大学・職員研修の実施 こどもたち(小4～中3)が夏休み期間中にSDGsや社会について学ぶ「こまきこども未来大学」や、市職員を対象にした職員研修を実施した。									

(2)事業費

事業費	項目				単位等	R2	R3	R4	R5	R6	
	直接経費	決算額	財源	一般財源	千円		2,211	6,989	6,183		
				国・県支出金							
				その他							
			計(A)		0	2,211	6,989	6,183			
			対前年比		%	—	—	316.10%	88.47%		
	予算額				千円		2,419	7,882	6,596	6,452	
	人件費	正規職員				人		0.5	0.7	0.7	
		正規職員(平均賃金)				千円	0	3,743	5,240	5,240	
		その他職員				人					
		その他職員(時給×時間)				千円					
		計(B)				千円	0	3,743	5,240	5,240	
事業費合計(C=A+B)					千円	0	5,954	12,229	11,423		

(3)業績

展開方向における指標の推移	基本施策	32	指標名		単位	方向性	基準値	R5	R6	R7	R8
			1								
	展開方向	3	2								
			3								

指標	指標ほか		単位		R2	R3	R4	R5	R6
	成果指標	こまきSDGsパートナーの登録数		目標			10	50	70
				実績			11	41	
		こまきこども未来大学に参加してよかったと回答したものの割合	%	目標			100	100	100
				実績			91	98	
	活動指標	こまきこども未来大学の受講者数	人	目標			—	—	
				実績			139	178	
				目標					
				実績					
	単位あたり 事業費	受益者数(a)		人		500	500	500	
受益者あたり事業費(=C/a)		円		11,908	24,458	22,846			

(4-1)事業の評価

事業の評価	事業の方向性	維 持(改 善)	事業のボリュームは現状規模で維持するものの、手法の改善をするもの								
	事業の達成状況と課題	令和5年度は「こまきこども未来大学」の講座の内容について、こどもたちがより興味を持てるような講座内容となるよう参加企業・団体のコーディネイトを実施した結果、成果指標は令和4年度よりも目標値に近づけることができた。これは企業・団体が実施する講座の内容について、ノウハウを有するこまき市民活動ネットワークや十人村が企業・団体の専門性を活かしながらも、こどもたちが興味を抱き、SDGsの学びにつながる内容にするために各企業団体の伴走支援を実施し、企画のブラッシュアップなどのコーディネートした結果であると分析している。 また、SDGsパートナーの登録数については目標を達成することができなかった。これは企業・団体に対して広く制度の周知はしていたが、個別に情報提供・PR等ができていなかったことが要因であると分析している。 受益者あたりの事業費を抑制するため、引き続き事業費の削減を図る必要がある。		今後の実施内容・今後の改善内容	SDGsパートナーの登録数を増やし、より良い未来のためにSDGsを共に推進するため、小牧市と関わりがありSDGsに取り組む企業・団体とつながりを持つこまき市民活動ネットワークと連携し、企業・団体・学校に対して、個別に情報提供し、登録を促進する。 SDGsこまきカードのファシリテーターの養成講座や職員研修を開催し、SDGs推進の普及促進を図る。						
	改善の有無	有			千円	節		細節		細々節	
	これまでの改善内容	SDGsパートナーへの登録申請の記入例を見直し、企業・団体の申請手続きの簡便化を図った。また、更新についても制度を見直し、手続きなく更新ができるよう要綱改正を実施した。		事務事業評価による額							

(4-2)事業継続の可能性(事業のスクラップ可能性)

事業分析	評価項目		評価結果	評価結果を判断した理由
	妥当性	行政が公費を投入して実施することが妥当か(対象を見直すことはできないか)	妥当である	SDGs未来都市として、小牧市が主体的にSDGsの普及啓発に取り組むことは妥当である。また、行政だけではSDGsの達成は困難であることから、公費を投じて市民や団体、企業に対してアプローチすることも妥当である。
	有効性	廃止・休止した場合に住民が影響を受けるか	一部の住民に影響がある	パートナー登録制度を廃止した場合は、「こまきSDGsパートナー」の肩書及び特設サイトの利用や交流会を通じた企業・団体同士の交流の機会が減る。 また、こまきこども未来大学の対象である小中学生がSDGsや社会について学ぶ機会が減る。
	効率性	サービスを低下させずに総事業費を削減できないか	削減の余地がある	・事業費の多くを占める「SDGs未来都市推進委託料」の委託内容のうち職員研修方法等の見直しにより、事業費削減を検討する。
		外部への委託や類似事業との統合により事業費の削減の余地はないか	外部委託や統合により削減の余地がある	・SDGsの取組は市の全事業に該当するものであるため、各課の事業において市民参加や企業連携等を取り入れ、SDGsの推進を図りながら実施することができれば、SDGsこまきカード等のSDGs普及啓発に係る取組は縮小することができる可能性はある。
	公平性	受益者負担は適正か	適正である	こまきこども未来大学に協力いただいている企業・団体については持続可能性の観点から講師謝礼等の支払いはしていない。また、SDGsこまきカードの作成やこまきこども未来大学の講座受講者に参加費等を求めることは、参加率の低下につながる可能性が高く、適当ではない。